

不動浜ふるさと環境を守る会 4万本のヒマワリで故郷の景観を創る

草津市南山田町の休耕田に、ヒマワリが植えられて5年。
見ごろを迎える7月下旬になると、県内を中心に多くの見物客が訪れます。
ヒマワリ畑を運営するのは、不動浜ふるさと環境を守る会。
草刈りや水路の清掃などによって、美しい景観を残そうと奮闘しています。



不動浜ふるさと環境を守る会の取り組み

会では年度ごとに立てる事業計画に沿って、保全活動に取り組んでいます



1



2



3



4

1.年に一度、子どもたちを招いて十二川の生き物観察会を実施 2.水路の草刈りや除草、掃除といった地道な活動を続けています 3.透視度調査は、田んぼで使った濁水を琵琶湖に戻さないようにすることが狙いです 4.ヒマワリ畑から車で2分ほどの場所にある「不動浜あじさい通り」も活動の一環です

ヒマワリの品種は「ハイブリッドサンフラワー」。1.5メートルほどの高さになり、倒れる心配が少ない品種です

ヒマワリの開花に合わせ 住民がつながる祭りも

ヒマワリを植栽した初年度、会では積極的にPRをしていませんでした。しかし、美しい光景にメディアの注目が集まり、県内を中心にたくさんの方の見物客が訪れました。車を運転中にヒマワリ畑に目を奪われ、路肩に停車して眺める人の姿も見られたそうです。こうした反響から、隣の休耕田の所有者からも「私の田んぼも使ってもらえたら」と打診を得ます。ヒマワリ畑は2年目から現在の広さへと拡張しました。

そのため、溝の数を大幅に増設。「場所があくまで田んぼ。畑と違い水はけが悪く、水位が上がりがやすい。水没すると根腐れするのが難しい点です。そのために、排水路をしっかり」と整備しました。
これまでは水はけが悪く、土がぬかるみ、ヒマワリ畑の中に分け入るにも躊躇する人が多かったそう。今年は水はけが改善され、ヒマワリを間近で観察できるよう。



上) 種蒔きには子どもたちも参加。今年は5月28日に行いました 下) ヒマワリの種は毎年、購入します。鳥に食べられないよう薬品が塗ってあります



不動浜ふるさと環境を守る会の皆さん。右から1番目は前会長の岡保（おかたもつ）さん、2番目は会長の馬場勝廣（ばんばかつひろ）さん

水路清掃など地域ぐるみで環境保全に取り組む
草津市南山田町に広がる約3300平方メートルの休耕田。毎年7月下旬になると、葉が触れ合うほど密集した約4万本のヒマワリが、競うように背比べをします。ヒマワリは、南山田町の不動浜ふるさと環境を守る会と、町内会や老人会、子ども会が協力して育てています。
活動の始まりは2007年。滋賀県が農地維持や資源維持活動を集落単位で行う「農村まるごと活動」をスタート。草津市内の集落で10組織をつくったうちのひとつが、南山田町不動浜地域の不動浜ふるさと環境を守る会です。農業生産者を中心に、町内会などの地域組織と連携して活動を開始。農道と周辺の草刈りなどの農地維持活動や、水路の泥上げなどの清掃活動を始めました。

休耕田を利用して 地域の景観に役立てる

十二川の環境整備と水路清掃がひと段落した2013年。次に着手したのが休耕田を利用したヒマワリ栽培でした。「休耕田は不動浜会館の目の前にあります。町民が集まる場所で、車の往来が多い浜街道からもよく見える場所。減反で草しか生えていなかった田んぼに花を咲かせ、『みんなに見てもらいたい』とヒマワリの植栽依頼がありました」と会の皆さん。ヒマワリなら育てやすく、田植えがひと段落した5月下旬に種を蒔いても、夏に見ごろを迎えます。
当時の休耕田は約1600平方メートル。しかし、トラクターで畦を作る整地作業や、種蒔きに多くの人手が必要でした。「種蒔きの日は事前に決めておいて、子ども会や老人会の皆さんにも手伝ってもらいました。30センチ間隔で開けた穴に3粒ほどの種を蒔くのですが、人海戦術で乗り切りました」と、不動浜ふるさと環境を守る会の三代目会長・馬場勝廣さんは笑顔をみせます。
2年目からは生育を促す肥料を入れるなど、年を重ねるごとに試行錯誤を繰り返してきました。とくに今年は水はけを良くす

とくに毎年の草刈りが大変だった十二川の堤防には、センチピードグラスやヒメイワダレソウを植栽。これらは繁殖力が強く、地表面を覆うように生えるため、雑草で困ったときのグラウンドカバーとして人気があります。草刈りの手間を減らし、限られた労力で環境を守る工夫をしています。
活動は次第に広がり、琵琶湖の環境保全を目的とした濁水防止のための透視度調査や、市道の隣にある水路に沿って景観を改善するアジサイの植樹も行われました。